カテーテル治療を施行した小児頸部膿瘍の２例

石　田　芳　也[1)]　吉　野　和　美[2)]　朝　日　淳　仁[1)]
和　田　哲　治[1)]　金　井　直　樹[1)]
１）北見赤十字病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科
２）北海道社会保険病院　耳鼻咽喉科

頸部膿瘍の治療は，抗生剤投与とドレナージが基本であり，対応を誤ると縦隔炎，敗血症，気道閉塞などの合併症から不幸な転帰をとる．外切開を用いたドレナージの場合，術後の瘢痕や入院期間の長期化が問題になる．

今回，我々は小児頸部膿瘍症例に対してエックス線透視下，エコーガイド下にセルディンガー法を用いてカテーテルを留置した．エコーで血管の走行，膿瘍の位置を確認後，穿刺部に小切開を加え外套付の穿刺針を刺入した．膿瘍内に針の先端が到達したのを確認し，ダイレーターで穿刺部位のルートを広げた後，ピッグテールカテーテルを挿入した．カテーテルにはSBバック（秋田住友ベーク株式会社３㎜）のリザーバーに接続し陰圧をかけた．留置後は１日１回洗浄を行った．ピッグテールカテーテルは先が丸まっており，膿瘍腔内に留置し易く，抜けにくいため膿瘍内でのドレナージでは多用される．本治療によって良好な経過を得られたので報告する．